

2020年6月5日

シリーズ企画「コロナ後のイノベーション動向」

## 【2】浮上するヘルス系スタートアップ

### —米中で遠隔医療注目、治療薬開発支援も

主任研究員 上原正詩

(要旨)

- ▶ スタートアップ約1200社(評価額3億ドル以上)を分析すると、ヘルス系がソフト系に続いて多くのスタートアップを抱え、ユニコーン候補企業が手厚く存在することが分かった。同分野では米国が7割を占めて世界をリードし、サンフランシスコに続きボストンが評価額合計で2位に浮上した。
- ▶ コロナ禍で、遠隔医療を手掛けるスタートアップが米中などで注目されている。中国では騰訊控股(テンセント)が支援する微医(ウィードクター)、米国ではニューヨークにあるゾクドックなどだ。
- ▶ 新薬などの開発プラットフォームを提供する企業も米国を中心に台頭している。ボストンのギンクゴー・バイオワークスなどだ。がん治療薬などを手掛けているスタートアップがその知見を生かし、コロナ治療薬の開発に乗り出している例も多い。

連載第1回ではコロナ禍中(3月以降)のスタートアップの資金調達状況から「ヘルス」「ソフトウェア」の2産業分野が注目されていることを見た。スタートアップ全体を見ると、この2つの分野には多くのVCが以前から注目していることが分かる。VCが支援するスタートアップ約1200社<sup>1</sup>を評価額の大きさ別に見てみると、この2分野はユニコーン(評価額10億ドル以上)<sup>2</sup>になる前の「予備軍」の割合が他の産業分野に比べて多いことが分かる。ベンチャーキャピタル(VC)が幅広く、ユニコーン候補に投資している状況が読み取れる。

#### ■ユニコーン予備軍、「ヘルス」「ソフト」「ハード」に手厚く分布

図表1~2は、スタートアップを評価額の大きさで「デカコーン」「ユニコーン」「デミコーン」「ミニコーン」の4種に分類し、産業の4大分類、12分野ごとに評価額別の各産業の占める割合を示したグラフである<sup>3</sup>。デカコーン<sup>4</sup>はユニコーンの下限水準の10倍(Deca)の評価額

<sup>1</sup> 4月30日時点で、評価額3億ドル以上の未上場企業1198社。Pitchbookのデータベースに掲載されているのは、2008年以降にVCから出資を受けた企業となる。

<sup>2</sup> 米VC、カウボーイ・ベンチャーズの創業者アイリーン・リー氏の命名。

<http://cowboy.vc/blog/?p=29>

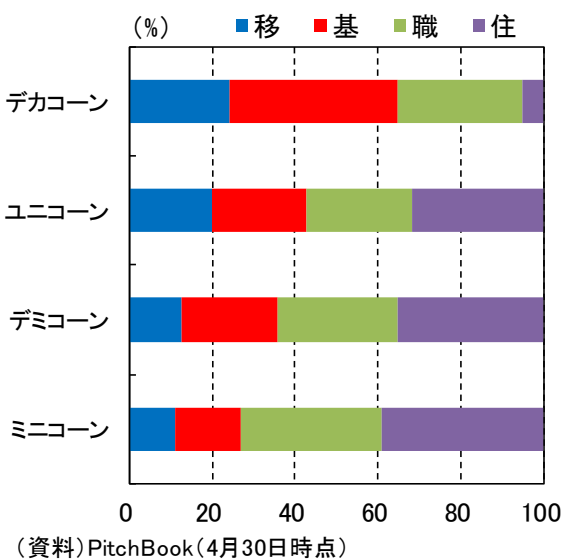
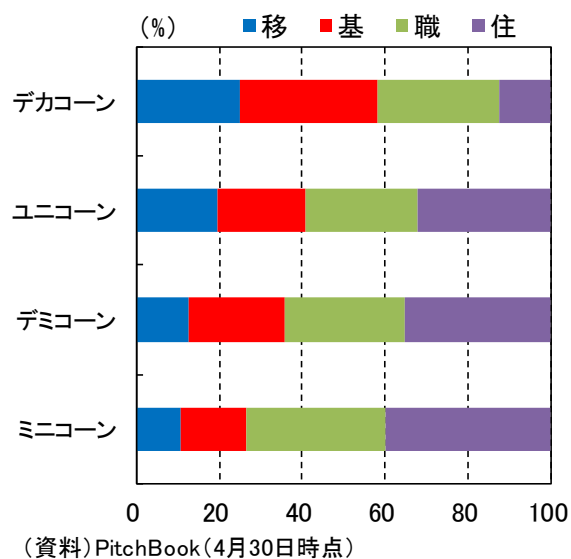
<sup>3</sup> 産業分類は連載第1回参照。1198社のうちデカコーンは企業数24社、評価額合計6788億ドル、ユニコーンは417社、9447億ドル、デミコーンは334社、2236億ドル、ミニコーンは423社、1596億ドルだった。産業分類別の企業数はライドシェアが25社、1216億ドル、フード宅配等は44社、797億ドル、自動運転は53社、987億ドル、物流は53社、978億ドル、フィンテックは167社、4630億ドル、電子商取引は73社、1051億ドル、ソフトは265社、4284億ドル、ハードは95社、1353億ドル、ヘルスは186社、1583億ドル、不動産は41社、773億ドル、教育は27社、375億ドル、メディア・エンタメは169社、

100 億ドル以上、デミコーンはユニコーンの下限水準の半分 (Demi) の 5 億ドル以上、ミニコーンは 3 億ドル以上とした。デミコーン、ミニコーンはユニコーン予備軍である。「スーニコーン」(Soon to be unicorns) などと呼ぶこともある<sup>5</sup>。コロナショックの前の過去の投資が中心となるが、VC がどのような分野に注目しているか、今後どのような産業分野が浮上しそうかを見る上で有用である。

図表 1 「移」「基」「職」「住」の評価額別シェア

(企業数)

(評価額合計)



各社の事業が順調に拡大すれば、デミコーンは資金を集めてユニコーンに、ミニコーンはデミコーンになって行くと考えられる。コロナショックのように株式市場全体の価値が低下している時は、評価額が下がってユニコーンがデミコーンに逆戻りすることもあるが、一般的にデミコーンやミニコーンの比率が高いほど、その産業分野から次のユニコーンが生まれる可能性は高くなるだろう。

図表 1 を見ると「移」はデカコーン、ユニコーンに企業及び資金が集中し、逆に「住」はデミコーン、ミニコーンなど予備軍に集まっている。「基」は「移」に、「職」は「住」に傾向が似ている。VC 投資が「移」「基」から「職」「住」の分野にシフトしつつあり、コロナ後もそうした傾向が続く可能性が高い。

図表 2 を見ると「移」の中でもライドシェアがデカコーン、ユニコーンへの集中度が高い。「基」ではフィンテックが評価額の大きなスタートアップに偏っている。一方、「住」ではヘルスの存在が大きく、デカコーンが存在せず、ユニコーンからミニコーンへと評価額が小さくなるにつれてシェアが拡大している。不動産、教育、メディア・エンタメはデカコーンを除くと、評

2041 億ドルだった。

<sup>4</sup> Y コンビネーターの創業者ポール・グレームの命名。

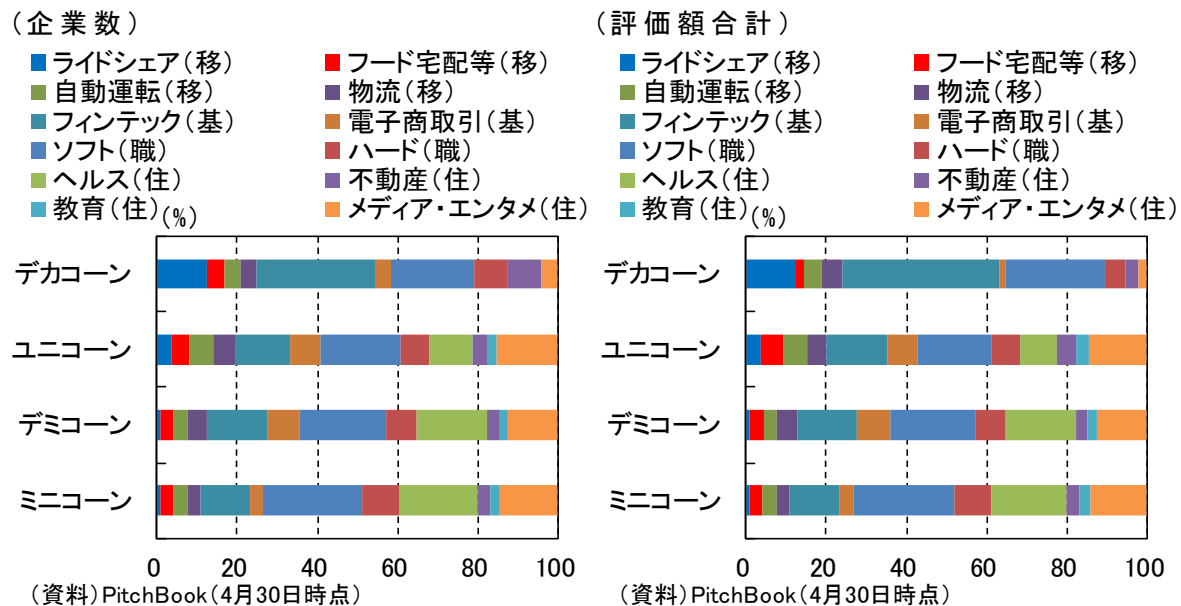
<https://twitter.com/paulg/status/1095032899080982528>

<sup>5</sup> 下記のサイト(インドのバンガロールにあるメディア)では評価額 100 万ドル以上の企業をミニコーンと命名している。スーニコーンについては明確な基準を示していない。

<https://indianstartupnews.com/what-is-minicorn-soonicorn-unicorn-decacorn-and-hectocorn-startups/>

価額別に大きなシェアの変動は見られないが、ミニコーンでシェアがやや増えている。

図表 2 12 産業分野の評価額別シェア



「職」のソフトウェアもデカコーンを除くと、ヘルスと同じようなトレンドにある。また「職」のハードウェアもヘルスほど極端ではないが、やはりユニコーン候補に VC が多く投資していることが分かる。

ここ数年、ウーバーテクノロジーズを筆頭に「移」への VC 投資が活発だったが、ウーバーも上場して出口を迎え、ライドシェア系スタートアップの再編・淘汰も各国で進んでいる。コロナ禍による都市封鎖で移動需要が極端に減少する中、「移」分野は転換期を迎えている。「移」への投資は峠を越え、企業の集約もある程度進んでいる。世界の VC は「住」「職」といった家やオフィスで利用するサービスへの投資を今後も進めていくと考えられる。

以下、個別の産業分野について詳細を見てゆく。

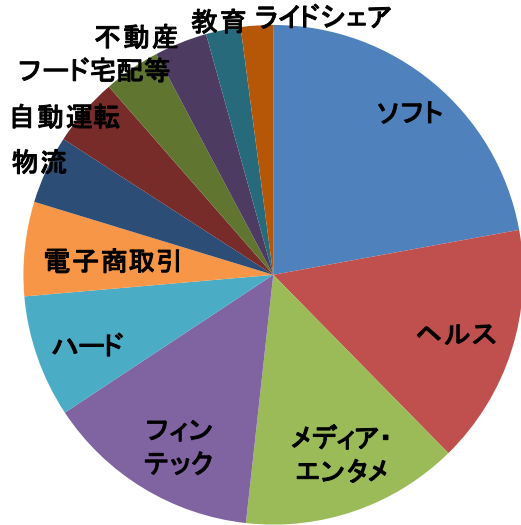
■ボストンが SF に次ぐ 2 位に

ヘルス系<sup>6</sup>のスタートアップは 186 社あり、ソフト系に続いて 2 番目に多い。評価額合計は 1583 億ドルで、フィンテック、ソフト、メディア・エンタメに続く 4 位だった(図表 3)。ユニコーンにおける割合では企業数、評価額ともソフト、フィンテック、メディア・エンタメに続く 4 位という位置づけだが、デミコーン、ミニコーンではソフトに次ぐ 2 位に浮上している(図表 3)。

ヘルス系の国分布を見ると、企業数では米国が全体の 7 割強を占め、中国の 16% が続く。評価額では米国が 3 分の 2 で、中国が 4 分の 1 弱(図表 4)。スタートアップ全体の国分布と比べると、米国の比率が高い(図表 5)。

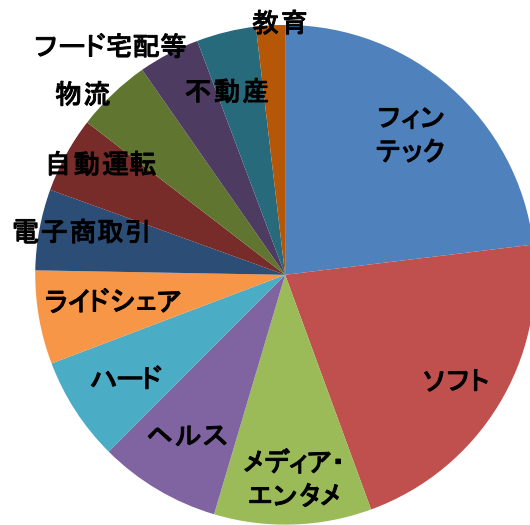
<sup>6</sup> ピッチブックの産業分類 Verticals のうち、Digital Health、HealthTech、Life Sciences、Oncology、Beauty、LOHAS & Wellness、Cannabis、Pet Technology、FemTech をヘルス系として分類した。

図表 3 スタートアップ全体の産業分布  
(企業数)



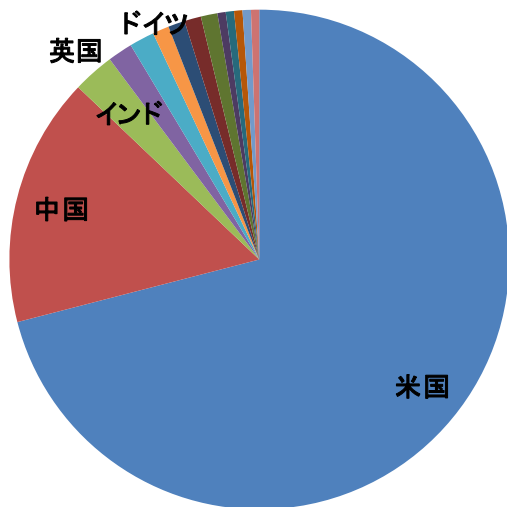
(資料)PitchBook(4月30日時点)

(評価額合計)



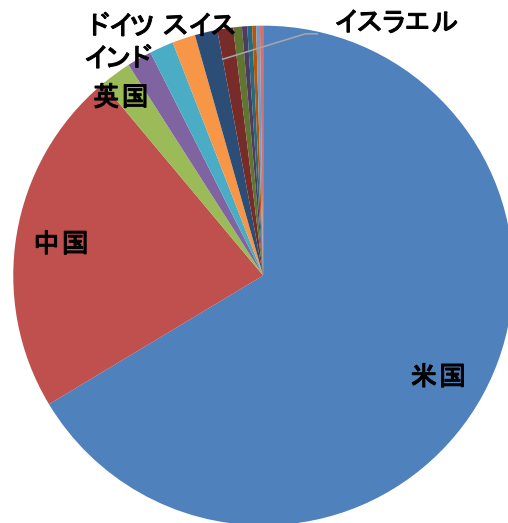
(資料)PitchBook(4月30日時点)

図表 4 ヘルス系スタートアップの国分布  
(企業数)



(資料)PitchBook(4月30日時点)

(評価額合計)

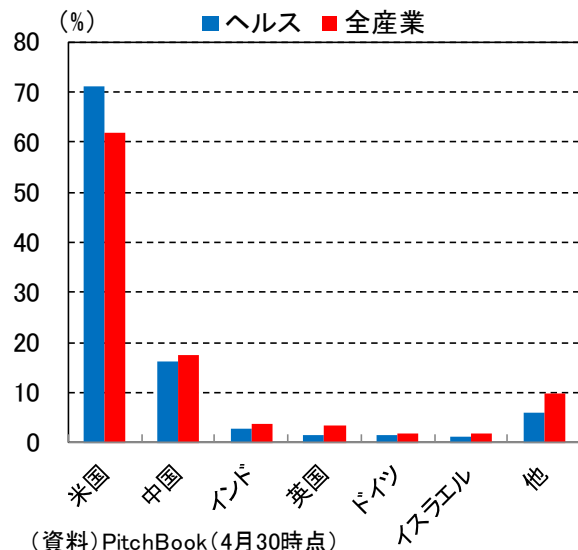


(資料)PitchBook(4月30日時点)

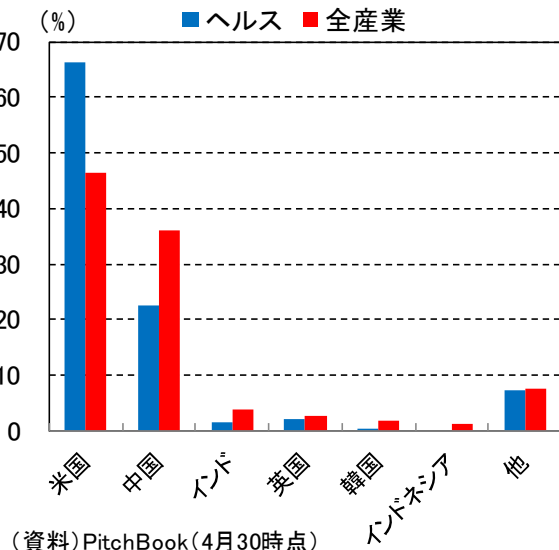
都市別では企業数ではサンフランシスコが首位で、ニューヨーク、ボストン、シリコンバレー、北京と続く。評価額ではボストンが2位に浮上し、上海が3位。ニューヨーク、シリコンバレーと続く(図表 6)。ボストンにはギンクゴー・バイオワークスやインターシア・セラピューティクス、上海には平安医療健康管理(平安医保科技、ピンアン・メディカル・アンド・ヘルスケア・マネジメント)といった巨大ユニコーンがある。

図表 5 ヘルス分野とスタートアップ全体の国分布比較

(企業数)

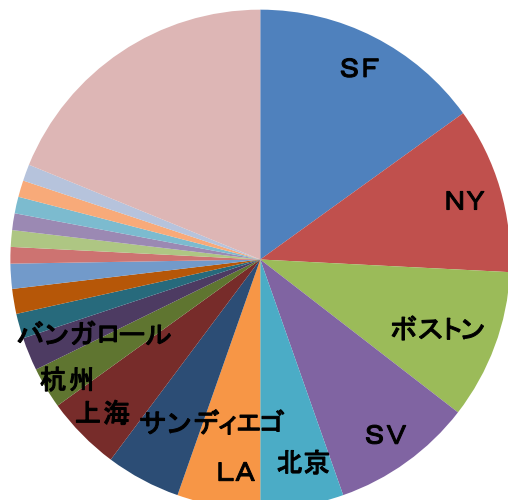


(評価額合計)

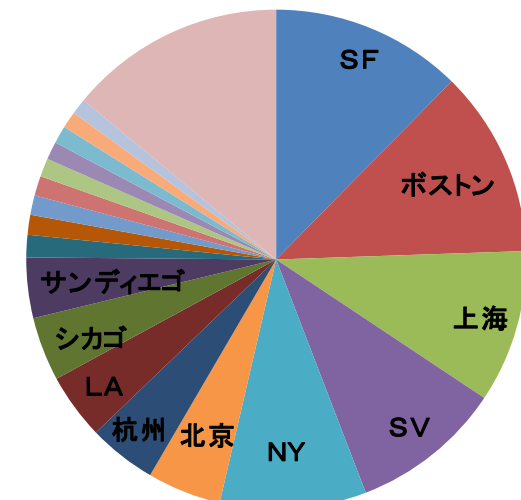


図表 6 ヘルス系スタートアップの都市分布

(企業数)

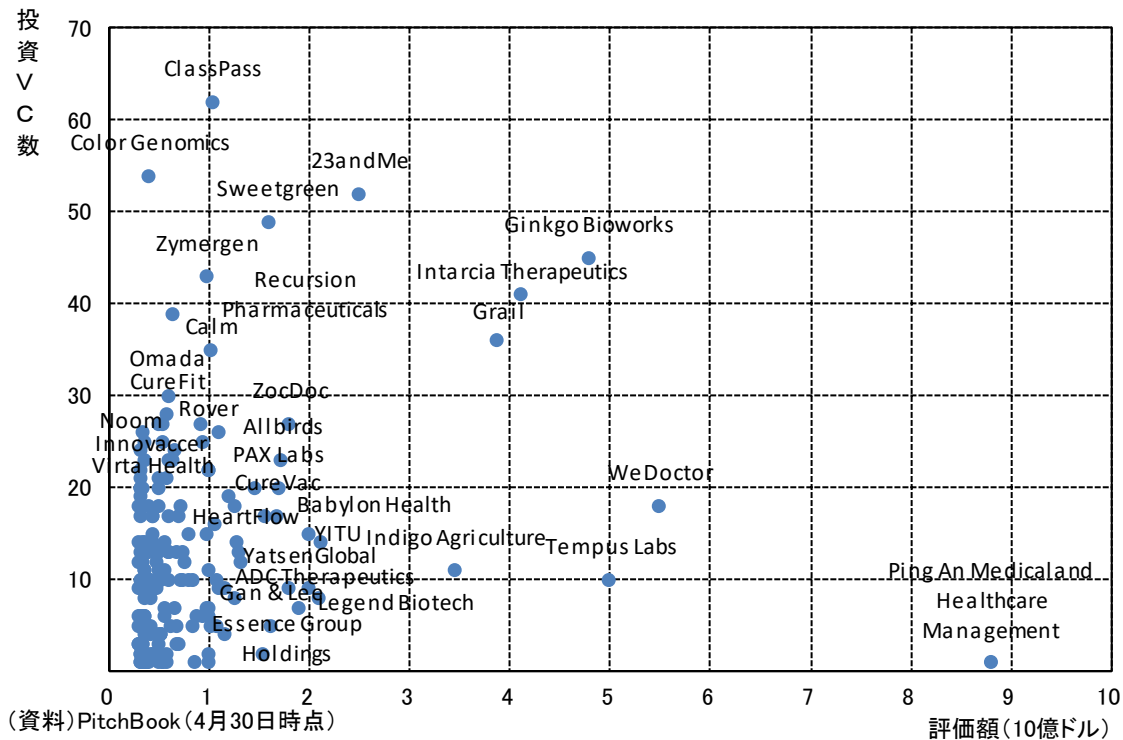


(評価額合計)



図表 7 はヘルス系スタートアップ 186 社を、横軸に評価額、縦軸に出資している VC の数(投資 VC 数)をとって描いた散布図である。評価額の大きな企業は比較的多額の資金を VC から調達し、それだけ将来のリターンが大きいと期待されている有望な企業と考えられる。またデミコンやミニコンでも、目利きである VC が数多く出資する企業は次の資金調達ラウンドで投資を受けやすいと考えられ、投資 VC 数も評価額と並び有望度を示す指標になると思われる。図表 7 を参考にしながら、注目のヘルス系スタートアップをピックアップし、同分野のトレンドを占う。

図表 7 ヘルス系スタートアップの評価額と投資 VC 数の散布図



① 遠隔医療

評価額トップはデカコーン一步手前の平安医療健康管理(平安医保科技、ピンアン・メディカル・アンド・ヘルスケア・マネジメント)(上海)。深圳の金融グループ、中国平安保険(香港取引所、上海証券取引所上場)の子会社として2016年に設立され、日本のSBIホールディングスが出資している。医療機関向けにカルテや医療保険の処理などをする医療情報管理プラットフォームをクラウドベースで提供している。中国30省と200超の都市をカバーし、8億人の国民にサービスを提供しているという。コロナウイルス対策では傘下の平安健康(検測)中心がウイルス抗体検査を実施したほか、日本のみらかホールディングスと共同で医療用マスクなどの支援物資を武漢に供給したり、現場にCT(コンピューター断層撮影装置)搭載車を送り込んだりした。

評価額2位の微医(ウィードクター)(杭州)は遠隔医療や医療機関のネット予約サービスを提供する。2010年設立で、テンセントが2014年に出資し「微信(ウィーチャット)」経由で医療サービスを受けられるようになった。コロナウイルスの感染拡大で遠隔医療への需要が急増しており、同社は香港取引所への上場を予定していると報じられている<sup>7</sup>。同社には啓明創投(チミン・ベンチャー・パートナーズ)、高瓴創投(ヒルハウス・キャピタル・グループ)、アジアの保険大手AIAなどが出資している。

微医と平安保険はライバル関係にある。平安保険は子会社で2018年に香港取引所に

<sup>7</sup> South China Morning Post “Tencent-backed WeDoctor makes IPO appointment in Hong Kong and writes prescription for digital health care post-pandemic” June 4, 2020  
<https://www.scmp.com/business/banking-finance/article/3087385/tencent-backed-wedoctor-makes-ipo-appointment-hong-kong>

上場した平安健康医療科技(ピンアン・ヘルスケア・アンド・テクノロジー)(5月末の時価総額約140億ドル)を通じて、遠隔医療サービス「平安好医生(ピンアン・グッド・ドクター)」を提供している。微医をバックアップしているテンセントは医療分野に力を入れており、中国政府からも医療イメージングの分野の「国家次世代AI開放革新プラットフォーム」に選ばれている。遠隔医療ではユニコーンの**企鵝杏仁集団(テンセント・トラステッド・ドクターズ)**(上海)や同じくユニコーンの**妙手医生(ミャオショウ・ドクター)**(北京)にも出資している。インドのデミコーンで、遠隔医療、診療予約を手掛ける**プラクト(バンガロール)**にも投資している。

米国ではユニコーンの**ゾクドック(ニューヨーク)**が、ネットを通じて評判のいい医師を見つけ、通院予約ができるサービスを提供してきた。コロナウイルスの爆発的感染拡大を受けて、同社はオンラインで医師の診断が受けられるサービス「ビデオビジット」や、看護師に無料で相談できるサービスを本格的に開始した。米保健省も3月、コロナウイルスの緊急事態期間中は、これまで通院できない地方に限定していた遠隔診療を、都市部でも保険適用の対象とする規制緩和を実施した。2007年設立で英ベイリー・ギフォード、アマゾン・ドット・コム創業者のジェフ・ベゾス氏、セールスフォース・ドットコム創業者のマーク・ベニオフ氏など約30社・人が出資する。

ユニコーン目前の**アメリカン・ウェル(ボストン)**は2006年設立の遠隔医療専門のスタートアップで、独アリアンツ、米アンセムなど保険大手からも出資を受けている。ミニコーンの**MDライブ(マイアミ)**も同様のサービスを提供する。フランスでも2013年設立のユニコーン、**ドクトリブ(パリ)**がゾクドックのようなネットを通じた診療予約サービスを提供しており、19年1月に遠隔医療サービスに参入した。

## ②新薬等の開発プラットフォーム

評価額3位の**テンパス・ラボズ(シカゴ)**はがん患者の臨床データなどのビッグデータを分析し、がん治療に役立つ情報を医師などに提供している。多くの臨床データからどのような遺伝子を持つ個人ががんにかかりやすいかなどが分かり、こうした分析はがん以外にも応用できる。同社は5月、コロナウイルスなどの感染症にも分析の対処を拡大することを発表。コロナへの感染の有無を調べるPCR検査を開始し、最大5万人の患者のデータを収集するという。同社はクーポン共同購入サイト、グルーポンの共同創業者エリック・レフコフスキー氏が2015年に設立し、英投資ファンドのベイリー・ギフォード、米投資会社ティー・ロウ・プライスなどが出資している。

評価額4位の**ギンクゴー・バイオワークス(ボストン)**はテンパスとほぼ同じ評価額だが、米アクセラレーターのYコンビネーター、米保健福祉省(HHS)、ベイリー・ギフォード、ティー・ロウ・プライスなど40以上の投資家が支援している。遺伝子工学を駆使して、微生物や細胞を改変し、香料や医薬品などの化合物の生産工場に改変する「合成生物学」スタートアップだ。遺伝子のDNA(デオキシリボ核酸)塩基配列を解析する「DNAシーケンシング」技術や、酵素を使って特定の遺伝子をゲノム(遺伝情報全体)に組み込む「クリスパー(CRISPR)」技術などを使う。生物を改変するプロセスを自動化し、その開発・製造工程を顧客にプラットフォームとして提供する。農業、医薬品、食品など幅広い産業への応用を狙う。

ギンクゴーはYコンビネーター及びバイオ系アクセラレーターであるペトリ(ボストン)と19年に提携し、両社が育成するバイオ系スタートアップに開発プラットフォームを無料で提供を始めた。ギンクゴーはこうしたスタートアップに少額出資する。2020年3月には新型コロナウ

ウイルスの DNA 解析など治療薬やワクチン開発に、同社のサービス 2500 万ドル分を寄付すると発表し、コロナ対策の面でも同社の知見を広く応用していく考えを示している。

ギンクゴのように提携企業に新薬、新化合物の開発プラットフォームを企業向けに提供する有望企業はほかにもある。ユニコーン目の米 **ザイマージェン** (サンフランシスコ) は合成生物学を基盤とするスタートアップで、ギンクゴの競合とも見られている。微生物改変技術に人工知能やロボットオートメーション技術を組み合わせて、微生物を使って石油からは合成できない化学品を開発したり、高効率で生産したりする技術を顧客に提供する。2019 年 4 月には住友化学との提携を発表し、ディスプレイ向けの光学フィルム、傷が付きにくいコーティング材料などの特殊材料を開発するという。

デミコーンの米 **リカージョン・ファーマシューティカル** (ソルトレークシティ) は医薬品開発に機械学習といったコンピューターサイエンスを応用する。遺伝性疾患などの治療薬を発見するのに、モデル細胞に候補化合物を投薬して細胞の画像をコンピューターで大量自動処理することで投薬効果を判断する。マイクロソフトの創業者が設立したビル&メリンダ・ゲイツ財団、米国立衛生研究所 (NIH) などが出資する。デミコーン目の米 **パス AI** (ボストン) も病理学に機械学習を応用する。患者の細胞の画像を機械学習といった AI で処理することで、がん細胞かどうかを迅速に判断する。独メルク、米ブリストル・マイヤーズ スクイブも戦略的投資している。

中国では、ユニコーンの **北京義翹神州** (シノ・バイオロジカル) (北京) が遺伝子組み換え技術で製造したタンパク質やモノクローナル抗体の試薬を医療機関や研究者向けに提供している。チミン・ベンチャーが出資している。コロナウイルスの抗原、抗体も開発・販売も始めている。ビル&メリンダ・ゲイツ財団からも支援を受けて、より迅速に判断できるコロナウイルスの検査キットも開発中だ。

### ③治療薬開発、コロナ薬も

評価額 5 位の **インターシア・セラピューティクス** (ボストン) は糖尿病や自己免疫疾患などの慢性疾患向けの治療薬及びドラッグ・デリバリーシステムを開発している。長さ 4 センチ、直径 4 ミリほどの円筒形のポンプに薬を入れ、それを皮下に埋めることで、頻繁に注射しなくても投薬できる仕組み。1995 年設立で、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、GGV キャピタルなどが出資している。中国のユニコーン、**甘李** (ガン&リー) (北京) も糖尿病をターゲットにするスタートアップで、遺伝子組み換え技術を使ったインシュリンの製造・販売を手掛けている。

コロナ治療の模索をする企業もある。ユニコーンの独 **キュアバック** (シュトゥットガルト近郊のチュービンゲン) は一本鎖のメッセンジャー RNA (リボ核酸) をがんなどの治療薬に開発するスタートアップだ。2000 年創業で、ベイリー・ギフォード、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、独イーライリリーなどが出資する。3 月には欧州連合 (EU) の欧州委員会の資金支援を得て、メッセンジャー RNA を使ったコロナウイルスのワクチン開発に着手した。キュアバックはトランプ政権が非公式にアプローチし、コロナワクチン開発資金として 10 億ドルを提供する見返りに、ワクチンを米国に独占的に供給するよう要求した、と報道された企業である<sup>8</sup>。

デミコーン目の米 **セルラリティ** (ニューヨーク) はがん細胞を攻撃するリンパ球 (ナチュラル

<sup>8</sup> AFP 「独企業の新型ワクチン、トランプ氏が独占権購入もくろむ? ドイツ政界に怒り」  
2020 年 3 月 16 日

[https://www.afpbb.com/articles/-/3273629?cx\\_part=search](https://www.afpbb.com/articles/-/3273629?cx_part=search)



ルキラー＝NK＝細胞)を胎盤から培養し、がん治療薬として応用する「免疫療法」を研究する。同社は2020年4月、米食品医薬品局(FDA)の認可を受けて、同社が培養したNK細胞「CYNK-001」をコロナウイルス感染者の治療に投与し、臨床試験を開始すると発表した。がん細胞を攻撃するNK細胞は、ウイルス感染した細胞を攻撃しその増殖を防ぐことができる可能性がある。

同じくデミコーン目の米**アンサン・バイオフーマ**(サンディエゴ)はインフルエンザ治療薬を開発しており、米ブリistol・マイヤーズスクイブ子会社のセルジーンなどが出資している。インフルエンザが肺から気道に感染する過程でシアル酸が重要な役目を果たしており、アンサンが遺伝子組み換え技術で開発した酵素「DAS181」は肺表面からシアル酸を除去する。同社は2020年4月、武漢大学人民医院と共同でコロナウイルスに感染した重症患者にDAS181を投与したところ症状の改善が見られたと発表している。

#### ④検査・診断

評価額6位の米**グレイル**(シリコンバレー)は血液検査を通じて早期がんを見つける検査手法を開発している。がん細胞は特有の無細胞核酸を血中に放出することが知られており、同社は1万5000人以上のがん患者と健常者の血液のデータサンプルを採取、機械学習などを通じて分析し、50種類以上のがんを識別できることを確認したという。2015年設立のユニコーンで、同社にはグーグル、アマゾン・ドット・コム、テンセント、日本の電通など30社以上が投資している。同社は5月、遺伝子解析機器の米イルミナなどから新たに3.9億ドルを新規に調達している。これは3～5月の調達金額としてはヘルス系では米**ライエル・イミュノファーマ**(サンフランシスコ)に次ぐ2位。ライエルもユニコーンで、2018年にグレイルの創業者であるリック・クラウスナー氏が設立した。遺伝子改変した免疫細胞(T細胞)で固形がんを治療する方法を研究している。5月に伊ミルキーウェイ・ベンチャーズ・パートナーズなどから4.9億ドルを調達している。

評価額8位の**23アンドミー**(シリコンバレー)は唾液のサンプルを送れば、DNAを抽出して解析し、ルーツとされる場所や遺伝性疾患にかかるリスクなどを診断してくれる。2006年設立で、米セコイア・キャピタル、グーグル、スイスのロシュ、英グラクソ・スミスクラインなど50社以上が出資している。米**カラー・ゲノミクス**(シリコンバレー)は乳がんや卵巣がんなどのリスクを遺伝子検査で診断するスタートアップ。評価額4億ドルのミニコーンだが、NIH、ティー・ロウ・プライスなど50社以上が投資する。コロナウイルスの検査サービスでは、ドライブスルー方式の検査施設でサンフランシスコ市に協力している。

#### ⑤健康支援、心のケアも

最もVC投資数が多かったのは62社の**クラスパス**(ニューヨーク)。2013年設立のユニコーンで、フィットネススタジオと提携し、利用者は毎月一定額を支払えば、どのスタジオでも自由に予約・利用できるサービスを提供する。デミコーン目の**F45 トレーニング**(ロサンゼルス)もフィットネス関連で、45分間のトレーニングをチームで実施するスタジオを展開している。コロナ禍による都市封鎖でスタジオの利用が難しくなるなど両社とも打撃を受けている。ミニコーンの米**ヌーム**(ニューヨーク)はアプリを通じてダイエット指南するスタートアップ。2006年創業で、セコイア・キャピタル、クライナー・パーキンス(KPCB)などが投資している。

心の健康維持に取り組むスタートアップもある。米**ライトスピード・ベンチャー・パートナー**

ズなど 35 社が出資する米 **コーム** (サンフランシスコ) は 2012 年設立のユニコーンで、瞑想アプリを提供する。瞑想のための映像・音声コンテンツ、睡眠を促す音楽などの配信を手掛ける。ミニコーンの米 **ヘッドスペース** (ロサンゼルス) も同類だ。グーグルが投資するデミコーン目の米 **カルテット・ヘルス** (ニューヨーク) も、かかりつけの医者が患者にメンタルのヘルスケアサービスを提供する場合、適切な精神科医や保険会社を見つけ出し、チームとして患者に適切な治療が施せるようにするプラットフォームを提供する。

癒し、心のケアという意味ではペット市場も拡大中。ユニコーン目の米 **ローバー** (シアトル) は犬の散歩などペットシッターを検索・予約できるサービスだ。2011 年設立で、アンドリーセン・ホロウィッツなどが投資している。中国の **瑞派寵物医院管理 (リンパイ・ペット・ホスピタル)** (天津) もユニコーン目前で、動物病院を全国展開する。ゴールドマン・サックスが投資している。

### ■米国ヘルス系スタートアップには政府機関の支援も

ヘルス分野を支援する VC の中で、政府機関が上位に存在するのも同分野の特徴である。図表 8 にヘルスを支援する VC 上位 11 社 (ヘルス系 186 社のうち 8 社以上に出資する VC) を列挙した。3 位に米保健福祉省 (HHS) (日本の厚生労働省に相当)、6 位に米国立衛生研究所 (NIH) が入っている。政府機関は基礎研究に近い研究開発ビジネスを支援し、民間 VC のように短期間でリターンを求めないため、ヘルス系のような臨床試験などを経て事業化まで時間がかかる分野では重要な役割を果たしていると思われる。またビル & メリンダ・ゲイツ財団のような非営利財団も採算度外視で喫緊な課題を解決する研究テーマに資金を提供している。政府機関や非営利財団の存在がミニコーン級のスタートアップを増やしている可能性もある。

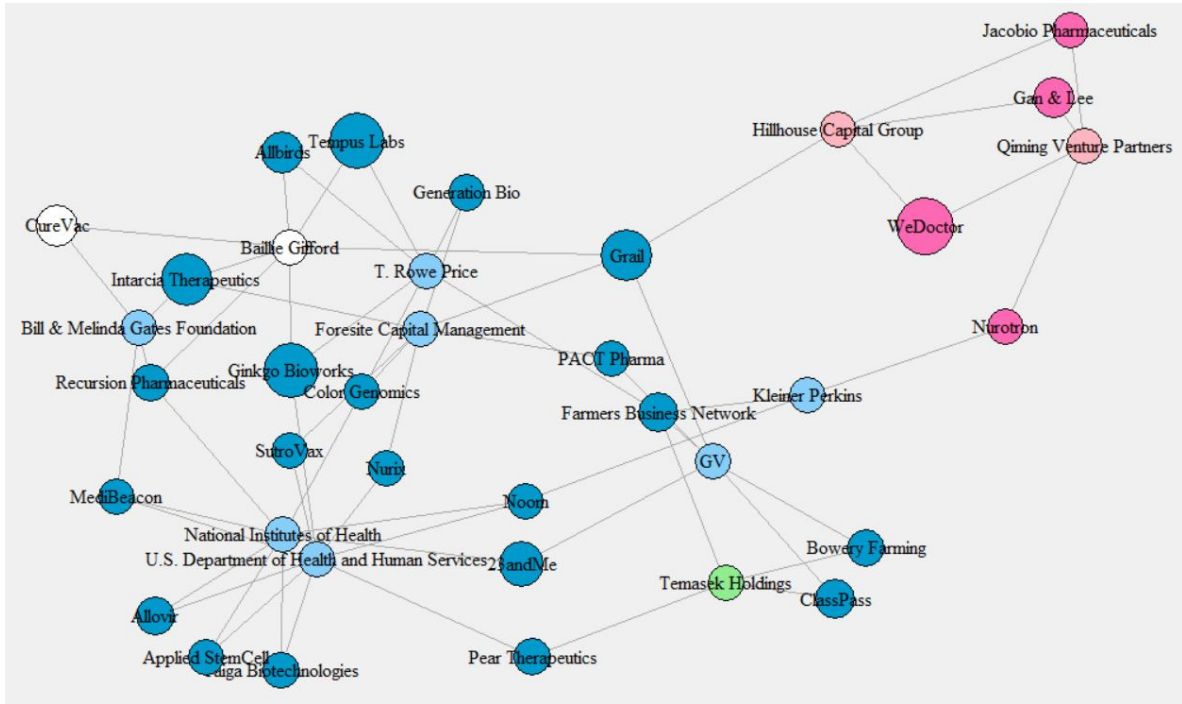
図表 8 ヘルスを支援する VC 上位 11 社 (カッコ内は出資スタートアップ数)

- 1 英ベイリー・ギフォード (12)
- 2 中国・啓明創投 (チミン・ベンチャー・パートナーズ) (12)
- 3 米保健福祉省 (HHS) (11)
- 4 米フォアサイト・キャピタル・マネジメント (10)
- 5 米 GV (旧グーグル・ベンチャー) (10)
- 6 米国立衛生研究所 (NIH) (10)
- 7 米ティー・ロウ・プライス (10)
- 8 米クライナー・パーキンス (KPCB) (9)
- 9 米ビル & メリンダ・ゲイツ財団 (8)
- 10 中国・高瓴資本 (ヒルハウス・キャピタル・グループ) (8)
- 11 シンガポールのテマセク・ホールディングス (8)

図表 9 はヘルス系に出資するトップ VC 11 社と、11 社のうち 2 社以上が出資する 26 のスタートアップの出資関係を描いたネットワークグラフである。有力 VC が共通して出資しているスタートアップを視覚的に把握できる。多くの VC が出資するスタートアップ、あるいは多くのスタートアップに出資する VC は中心付近に集まってくる。5 月に新たな資金調達を受けたグレイルは米中両方の VC から支援を受けて、グラフの中心にいる。米国のヘルス系スタ

ートアップの中心にはギンクゴ、カラーなどが見られる。

図表 9 ヘルス系の有力 VC とスタートアップの出資関係



(資料) Pitchbook、JGER

(注) 青い丸は米国系で濃い色がスタートアップ、薄い色が VC、赤い丸が中国系で濃い色がスタートアップ、薄い色が VC、白い丸はそのほかの国のスタートアップ及び VC。スタートアップの丸の大きさは評価額を表す。ヘルス系 186 社に出資する VC は 1600 社以上。そのうち 8 社以上に出資するトップ VC11 社と、その 11 社のうち 2 社以上が出資するスタートアップ 26 社の出資関係を描いた。

米スタートロボックス(シリコンバレー)はミニコーンで、肺炎など感染症のワクチン開発会社。新型コロナは対象としていないようだが、このほどバックサイトに社名を変更し、ナスダックへの上場計画を発表した。米パクトファーマ(サンフランシスコ)はがんの細胞療法の会社。米ファーマーズ・ビジネス・ネットワーク(シリコンバレー)はユニコーンで、ビッグデータで農業の経営支援をする。伊藤忠商事も出資している。

中国のスタートアップでは先に触れた微医や甘李が見られる。KPCB も出資する浙江諾爾康神経電子科技(ニューロトロン)(杭州)はミニコーンで、人工内耳メーカーである。

本稿の無断転載を禁じます。

詳細は総務本部までご照会ください。

公益社団法人 日本経済研究センター

〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル11F

TEL:03-6256-7710 / FAX:03-6256-7924